

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月15日現在

機関番号：41101

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2010～2011

課題番号：22652060

研究課題名（和文） 幼児英語活動における標準指導マニュアルの作成及び教材開発

研究課題名（英文） Developing a Standard Teacher's Manual and Materials for English Activities in Preschools

研究代表者

坂本 明裕（SAKAMOTO AKIHIRO）

青森明の星短期大学・子ども学科・教授

研究者番号：80225804

研究成果の概要（和文）：幼稚園等における英語活動指導では、英語活動を日常の保育活動の一環として位置づけることが重要である。指導者が子どもの普段の生活や発達の実態をよく把握した上で、遊び活動として子どもが主体的に関わることができるような活動計画を立てることが必要となる。本研究では、活動計画を立てる上での基本的な考え方を示した上で、園生活での行事等を題材にして、その中に、数、色、形などの基本的な概念や、日常で使われる挨拶等を盛り込んだ教材を作成した。

研究成果の概要（英文）：When English is taught in preschools, it is important for English activities to be integrated into the everyday childcare curriculum. It is also important for teachers to make sure that lesson plans are formed based on the principles of early childhood education. That is, English activities should be conducted as “play”, arising from children's own motivations, and with the children's daily life and physical and mental development always kept in mind. In this research, after having described this fundamental view of forming lesson plans for English activities, teaching materials including such elements as “numbers”, “colors”, “shapes” and “greetings” have been created, focusing on everyday life and events in the preschools.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	500,000	0	500,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,000,000	150,000	1,150,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学、外国語教育

キーワード：幼児英語指導・小学校英語活動・指導マニュアル・教材開発・指導法

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 小学校学習要領の改訂に伴い、小学校での外国語活動が必修化されるようになり、幼児教育の分野でも英語に対する関心が高まってきており、約 6 割の園が英語活動を何らかの形で保育の中に取り入れている。

(2) 小学校での英語活動については、標準教材として、「英語ノート」が作成され、指導の指針となっているが、幼稚園等での英語活動については、指導のスタンダードが存在せず、指導内容、指導方法、教材、指導者などが実施園によって大きく異なっている。

(3) 実際に園での英語活動の指導にあたる指導者として、子どもの生活実態や発達状況をよく知っている保育者の果たす役割は大きいですが、必ずしも英語指導に精通している指導者が多くない指導の現場では、標準となるカリキュラムの存在を必要としている。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究は、幼稚園・保育園で盛んに行われるようになってきた英語活動について、保育カリキュラムにおける位置づけを明確にしなが、年齢に応じた指導内容・指導法の研究、及び教材の開発を目的とした。対象年齢としては、幼稚園就学年齢の 3～5 歳とした。

(2) 研究にあたっては、①子どもの言語、認知面での発達の観点、及び②小学校英語活動との接点の観点から、子どもが「遊び」を通して英語活動を行うための標準カリキュラムの作成、及び教材の開発を目的とした。

### 3. 研究の方法

(1) 本研究は、2 年間の継続研究であり、1 年目では、幼稚園・保育園、及び小学校で実際に行われている英語活動の実態を観察・分析し、使用教材の分析を行った。さらには、就学前の子どもの発達の特徴を考察することとした。

(2) 2 年目では、1 年目の研究で得られた知見を基にして、発達年齢に応じた英語活動の標準的な指導法、及び教材を考察した。また、作成したカリキュラム、教材を使用して実際に英語活動を行い、その効果を検証した。

### 4. 研究成果

#### (1) 保育における英語活動の原理

英語活動の具体的なカリキュラムや教材を作成するにあたって、まず、作成の際の基礎となる英語活動の原理について、幼稚園教育要領や保育所保育指針、遊びや子どもの発達理論、第 2 言語習得や英語指導法などの観点から考察した。

#### 1) 幼稚園教育要領、及び保育所保育指針等からの視点

園生活の中での英語活動は、保育の一環として行われており、英語活動を行う上でも要領・指針に基づいた視点が必要である。保育環境の人的な環境構成の点から、活動の指導に当たる指導者は、子どもの状況を把握していることが不可欠であり、多くのケースに見られる外部講師が指導に当たる場合においても、普段の子どもの生活を観察したり、クラス担当の保育者と十分な打ち合わせをすることが必要である。

保育カリキュラムは、それぞれの園の特性や地域性などを考慮に入れて作成されており、英語活動もそうした通常のカリキュラムと連動していることが重要である。季節に応じた行事や地域のお祭りなどが園の年間指導計画に組み込まれているケースが多いが、クリスマスの時期には、英語活動においてもクリスマスに関連した歌、遊び、ゲームなどを中心とした活動が考えられる。

#### 2) 遊び、子どもの発達、及び第 2 言語習得理論等からの視点

幼児教育の基本は、「遊びを通しての指導を中心として保育のねらいが総合的に達成される」ことであり、英語活動においても、遊びの要素をふんだんに取り入れ、子どもの育ちを助長していくものでなければならない。子どもにとって遊びは、遊びによって得られる結果を求めるものではなく、遊びという行為そのものが動機づけになっている。一つの活動に楽しく集中して没頭でき、チャレンジする要素があり、想像豊かであるということも遊びの特質であることから、英語活動でもこうした遊びの特質が活かされた活動を工夫する必要がある。

ヴィゴツキーの「発達の最近接領域」は、子どもが一人では課題を達成できないが他の援助があれば達成できる領域で、子どもが自ら活動するにあたっての「足場」を提供するのが保育者の役割であり、指導者が中心となる活動はできる限り避ける必要がある。

#### 3) 英語活動の指導計画や教材を作成する上での留意点

具体的な指導計画等の作成にあたっては、次のような点に留意し、計画を作成する必要がある。

- ①指導にあたっては、子どもの発達や生活の実態を十分に把握し、保育者以外が指導にあたる場合には、担当の保育者と十分な打ち合わせを行うこと。
- ②園の行事等、園での生活を反映した活動を盛り込むこと。
- ③活動の中に異文化を意識できる要素を取り入れること。
- ④遊びの要素をふんだんに盛り込み、結果を求めることはないようにすること。
- ⑤指導者中心ではなく、子ども中心の活動になるようにし、子どもの直接的な体験を重視すること。
- ⑥活動に参加する子どもの発達の状況（年齢）を十分に考慮に入れること。
- ⑦TPR などの指導法を積極的に活用すること。

(2) 標準カリキュラムと教材の作成

カリキュラムの作成にあたっては、幼児の英語指導において優れた実践を行っている園の指導状況、小学校の英語活動の様子などを参考にした。当初は、年齢別に異なるカリキュラムが必要ではないかと考えていたが、この年齢は発達段階では同じ発達段階にあることなどから、同じテーマを年齢により内容の深さを変えることで対応することが望ましいとの結論に至った。

1) 年間指導計画の作成

カリキュラムは、年間指導計画を作成した上で、1 回の指導毎に指導手順となる活動案を作成した。年間計画は保育のねらいを達成するために催される園の主な行事との関連を重視しながら、活動として歌、絵本・紙芝居、ゲーム、TPR、製作等を取り入れ、易から難へ徐々に傾斜するような配列になるように心掛けた。

表 1

●指導原理に基づいた「英語活動」の年間指導計画試案

園行事	題材	主な活動内容・指導法	教材・環境構成	取り扱う語句
4月 始園式 入園式 参観日	あいさつ 自己紹介	・園の一日の流れを紙芝居で確認しながら、挨拶の表現に慣れる。 ・パペットを使って、自己紹介の言い方に慣れる。 ・動作をつけて歌を歌い、自己紹介の言い方に慣れ親しむ。 ・友達と自己紹介を楽しむ。	・使用する歌を BGM として流す。 ・紙芝居 ・パペット ・CD	Good morning. Hello, Good-bye. Good night. See you. What's your name? My name is ~.
5月 親子遠足	体調 動作の言い方	・歌に合わせて、体を動かす。 ・絵カードを使って、体調を表す言い方に慣れる。 ・ジェスチャーを見ながら、体調を言い当てるゲームを楽しむ。 ・TPR を使って、体を動かしながら、動作を表す表現に慣れ親しむ。	・CD ・絵カード ・十分なスペースがある場所を使う。	How are you? I'm fine, thank you. And you? I'm hungry, sleepy, happy, sad, etc. walk, run, jump, hop, crawl
6月 運動会 身体測定	体の部位 数	・「あたま、かた、ひざ、ボン」の歌を歌った後で、「Head, shoulders, knees and toes」の歌に合わせて、各部位をタッチする。 ・「Simon says」のゲームを楽しむ。 ・指を折って数を数える。 ・「Seven Steps」、「Ten Fat Sausages」などの歌やチャントに合わせて体を思い切り動かす。 ・数を使ったビンゴゲームを楽しむ。	・CD ・TPR でルールに気付けさせる。 ・指を使った数え方の違いに気付かせる。 ・フェルト製のソーセージ ・フライパン ・ビンゴカード	head, shoulders, knees, toes, eyes, ears, nose, mouth one ~ ten

表 1 は年間指導計画の一部であるが、5 月の部分については、次のようになっている。

- ・園行事  
親子遠足
- ・題材  
体調、動作の言い方
- ・主な活動内容・指導法  
歌に合わせて体を動かす  
絵カードを使い、体調を表す言い方に慣れる  
ジェスチャーを見ながら、体調を言い当てるゲームを楽しむ  
TPR を使って、動作を表す表現に親しむ
- ・教材・環境構成  
CD、絵カード  
十分なスペースがある場所を使う
- ・取り扱う語句  
How are you? I'm fine, thank you.  
I'm hungry/ sleepy/ happy.  
walk, run, jump, hop など

2) 教材の作成

教材の一つとして、園生活の各シーンをイラストにし、それをを用いて様々な活動ができるように工夫した教材を作成した。この教材は、A3 サイズで、基本になる園の風景は固定し、季節、行事等により配置するパーツを変えてある。

図 1、図 2 はその一例であるが、パーツの変化により、数、色、形、ものの名前、活動している動作などについて、ゲーム感覚で遊びながら楽しめるように工夫されている。

図 1



5月 子どもの日

こいのぼり 数 大きさ 7色

桜 木の本数

子ども 活動

教室の中 活動

時計 時間

図 2



2月 節分  
からす 数 色  
子ども 雪遊び 鬼  
風景 木々の数  
教室の中 活動

今回のカリキュラムについては、さらに精査し、詳細なものを作成していくことが必要である。現段階では、まだ標準カリキュラムと呼べるまでに至っていないが、さらに研究を進めたい。

また、教材については、パーツの精選が必要であるが、今後、デジタル化を検討することで、i-Padなどの電子ツールを使用してシーン、色、数、形状、子どもの活動、教室の様子、遊具などをその場で簡単に変えて提示できるようになり、遊びの中で英語に触れていくという保育における英語活動のねらいが達成可能となる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ① 福土洋子、成田恵子、坂本明裕、保育における英語活動についての一考察—活動計画作成における原理と年間指導計画試案—、青森明の星短期大学研究紀要、査読有、第37号、2012、pp.11-22、

[学会発表] (計0件)

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：

種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

坂本 明裕 (SAKAMOTO AKIHIRO)  
青森明の星短期大学・子ども学科・教授  
研究者番号：80225804

##### (2) 研究分担者

福土 洋子 (FUKUSHI YOKO)  
青森明の星短期大学・子ども学科・教授  
研究者番号：10228885  
成田 恵子 (NARITA KEIKO)  
青森明の星短期大学・子ども学科・准教授  
研究者番号：00172586  
江口 真理 (EGUCHI MARI)  
青森明の星短期大学・子ども学科・准教授  
研究者番号：70222495

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：